

第1回三田市教育委員会点検・評価委員会 会議録

- 日 時：令和3年6月4日（金） 10：00～12：21
- 場 所：三田市役所南分館6階 601A会議室
- 出 席：大久保委員、藤原委員、藪田委員
- 事務局：鹿嶽教育長、松下学校教育部長、外岡学校教育部次長、浅野教育総務課長、上野教育総務課担当課長、山本学校教育課長、山口教育支援課長、小山教育研修所長、廣瀬学校給食課長、鈴木教育総務課主任、松田教育総務課指導主事
- 傍聴者：1名

1 開会

2 教育長あいさつ

3 会議の公開

- ・公開とする

4 委員紹介

- ・委員紹介

5 委員長選任・委員長あいさつ

- ・委員長は、大久保委員長に決定、委員長あいさつ

6 議事

(1) 「令和3年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（令和2年度事務対象）」（素案）について

- ・素案説明（各担当課）、質疑応答（質疑応答の詳細についてはP2～P8）

(2) 「点検・評価委員の意見」の記載について

- ・（資料1） 資料説明
- ・各委員に6月20日（日）までの提出を依頼。

(3) 今後の日程

令和3年7月7日（水） 午前10時00分から

7 閉会あいさつ

8 閉会

【前年度の点検・評価委員の意見と意見に対する取組 事務局から説明後、質疑応答】

質疑なし

【基本施策1・2 事務局から説明後、質疑応答】

- 委員 「1 2 市立幼稚園の預かり保育の充実」(P25)について、回数が減っている理由は、コロナで休園だったからか。
- 事務局 希望がない時には実施しないこともある。また、コロナで4、5月が休園だったことにもよる。
- 委員 三田・三輪幼稚園の預かり保育実施日数の目標値について、令和3年度の目標は週5日であるが、令和2年度は目標値が3日ということなのか。
- 事務局 目標値(週5日)については、第2期三田市教育振興基本計画が平成29年度当初に作成され、その時に策定した数値目標であるが、幼稚園の小規模化などにより目標値は達成していない。再編計画による集団規模の確保と合わせて実施していく計画である。
- 委員長 「2 キャリアプランニング能力の育成」(P15)について、「プロから学ぶ創造力育成事業」は、どのような事業だったのか。
- 事務局 キャリアパスポート、キャリアノートは、全ての学校で使用している。ゆりのき台中学校、藍中学校では、モデル的に学校の特色を活かし、実施をした。今後は、市内各学校に広げていく。
- 委員長 わくわくオーケストラ推進事業は、8校中4校はビデオ視聴だったのか。
- 事務局 4校は学校でビデオを視聴した。
- 委員長 オーケストラは、ホールへ行き、ホールで観ることに意義があると思う。ビデオではなく、行くことは難しいか。
- 事務局 昨年も、ギリギリまで県と調整を行った。今年は、実際に行って観ることを考えている。
- 委員長 トライやる事業は、1日だけの実施であったが、どのような体験をしたのか。

事務局	各中学校の協議会で様々な検討を行った。地域に出て清掃活動などの奉仕活動を行った学校が2校、職業講話が4校、ものづくり体験が2校である。
委員長	「4 英語教育の推進」(P18)の県新学習システムとはどのようなシステムか。
事務局	様々な活用があるが、専科指導の職員配置、教科担任の配置等、県教育委員会で予算措置を行っているものである。
委員長	A L Tと外国語活動サポーターが5割程度に配置ということは、授業の半分については、A L T、外国語活動サポーターから受けたということによいか。
事務局	その通りである。
委員	「3 地域の良さを活かした体験教育の推進」(P16)の取組の評価において、S D G s 推進に向けた取組とあるが、どのような取組をしているのか。
事務局	例えば、環境学習、自分の生活と社会の問題・課題との関わり方を考える学習を行っている。
委員	「4 英語教育の推進」(P18)について、英語専科教員はどのくらいの日数、授業を行っているのか。
事務局	それぞれ配置されている学校で、一人当たり2校を担当している。全体として半数以上を目安としている。
委員	「5 情報教育の推進」(P20)の情報モラルについて、とても心配している。何歳くらいから、どのような形で、家庭にアプローチするのか。
事務局	家庭でも協力いただきたいところであるが、まずは学校で指導を行うべきだと考える。子どもたちの発達段階に応じて、相手の嫌がることはしないなど、わかりやすいところから指導する。また中学校においては、実際にSNSなどを使っていることもあり、実態に即した指導を行う。
事務局	生徒指導上のことでもある。家庭でルールづくり、定期的なルールの見直しもお願いしている。また、P T Aと連携しながら、情報モラルの講演会、入学説明会に合わせて講演会を設ける取組を実施している。
委員長	タブレットを配布しているが、オンライン授業は可能になったのか。

事務局	準備を進めているところである。現在は、集団授業が可能な状態である。非常時においては、オンライン授業を考えている。
委員長	学校からの動画配信は、どのくらいあるのか。
事務局	小学校で9つの動画、中学校で5つの動画を公開している。
委員長	小中学校のホームページについて、年間行事予定を掲載しているが、4月当初の情報が多い。年間計画の掲載に差がある。運動会が2学期になり、日程を確認しようとしたところ、情報が古かった。このような事態だからこそ、情報を常に更新することが大切だと思う。
事務局	修正を行う。
	【基本施策3・4 事務局から説明後、質疑応答】
委員	中学校に学校司書が配置されていない。中学校になったら、図書室に行く時間もなく、図書に触れる機会がない。中学生の時に、本に触れる機会があればと考える。
事務局	読書通帳の取組について、小学生は励みになっている部分があると思う。中学生については、そぐわない部分もあったと思う。中学生の読書意欲の喚起、環境整備等について、今後も取組を検討していきたい。
委員長	「16 授業改善の促進」(P29)について、研究グループのメンバー交代はどのようなになっているのか。
事務局	専門性を活かして取り組まれている先生は、継続して研究を進めている。三田市の教員構成として、若手教員が増えている。これからの若手教員について、研究がライフワークとなるような取組を見出してもらいたい時期だと考える。力を伸ばしていつてもらいたい。
委員	「15 学力向上指導改善プランの実践」(P28)の「小・中学校における新型コロナウイルス感染症の影響に関する調査研究」について、必要な調査だったと思う。
事務局	コロナ禍の学習において、計画を立てて普段と同じように学習できた児童生徒もいれば、課題が見られた児童生徒もいる。
委員	「17 学力向上に向けた補充学習及び発展学習の充実」(P30)のがんばりタ

	<p>イムについて、放課後の学習とは別に、人を募集するという事か。予算をつけていただけるということか。</p>
事務局	<p>放課後だけでなく、授業にも活動いただけるということである。これまで放課後だけであったものが、授業にも活動いただけるようになり、学校によって運用は違うが、柔軟に対応できるようになっている。</p>
委員長	<p>「19 読書活動の推進」(P31)の100冊読破の児童生徒はどのような内訳か。</p>
事務局	<p>小学生が385人、中学生が2人である。</p>
委員	<p>この数値は、図書システムから出力されたのか。</p>
事務局	<p>子どもたちからの自己申告によるものであり、システムから出しているものではない。</p>
委員	<p>中学生は、この表彰制度を知らないのではないか。中学校の先生が表彰制度を周知し、表彰をすることで励みになると思う。周知を考えてもらいたい。</p>
委員長	<p>「32 部活動の推進」(P42)について、部活動指導員の8校配置とあるが、人数は何名なのか。</p>
事務局	<p>8名。各校1名配置である。</p>
委員長	<p>朝練はなくなったのか。</p>
委員	<p>早朝練習はやらないという指導をしている。職員の働き方の問題、コロナにおける健康確認で早朝練習が難しかった。試合前等は検討することになっている。</p>
委員長	<p>地域で、最近中学生は元気がないという声を聞く。休日の部活動や朝練がない。中学校が元気になれば、地域も元気になると感じる。部活動の指導員を充実し、増やすことは難しいのか。</p>
事務局	<p>拡充・拡大して8校、8名になっている。</p>
委員	<p>部活動指導員の募集はどのようになっているのか。</p>
事務局	<p>4月になってから各顧問が決まる。継続して人を登録することが難しい。</p>

	各中学校で校長を中心に、地域の方や退職した教職員の方などをお願いしている。
委員	各校1名限定なのか。
事務局	令和2年は1校1名、令和3年は10名配置。2名配置している学校もある。
委員長	コロナが収束した後、部活動が盛んになることはないのか。
事務局	現在、国が大きく方向転換をしようとしている。地域と協働しながら部活動を行うことになる。今後は、地域の方と中学生との交流、活動が盛んになると思う。
	【基本施策5・6 事務局から説明後、質疑応答】
委員	「47 生徒指導の充実」(P55)のいじめの件数報告について、特色や傾向はあるのか。
事務局	いじめと感じたらいじめと認識し、報告している。半数以上がひやかしである。細かいいじめを取り上げているため、一定数の数がある。
委員長	重大案件はあるのか。
委員	今は、新聞に報道されるような案件はない。
委員長	各学校で記録はあるのか。
事務局	各学校でかなり細かい記録を指導している。
委員	「35 地域スポーツ活動の支援」(P45)について、スポーツクラブの活動場所に制限があり、子どもたちの居場所が減ってきている。学校施設を使用することはできないのか。
事務局	学校教育活動を第一に考えている。小学校であれば、夜に活動した後、朝に子どもたちが体育の授業で使う。スポーツクラブでも注意をしてもらっているが、消毒等の管理等、クラブにお任せしているところがある。活動中の飲食、トイレ清掃など、学校開放については、子どもたちが朝から使うことを考え、ストップしている。
委員	「39 健康教育の充実」(P48)の薬物乱用について、三田市ではどうか。

事務局 報道では大麻の低年齢化を聞くが、三田市ではない。

委員長 不登校児童生徒の子どもたちは、学校復帰しているのか。

事務局 部分復帰も含め、過去と比べて減っていることはない。

委員 あすなる教室について、どのくらい利用しているのか。

事務局 年によって違うが、昨年度末は、最終14名ほど、多い年は30名程である。近年は10名から20名程度で推移している。

委員 あすなる教室のような所につなぐことができないと聞く。学校からの紹介はあるのか。

事務局 学校から紹介することもある。また保護者からも行けないかという言葉かけをもらうこともある。まずは保護者にシステムの説明、施設見学をしてもらい、その後、子どもも施設見学を行い、理解を深めてもらっているところである。

委員 どの保護者も苦しんでいる。子どもへの対応も大切だが、親の横のつながりがなく、親の孤立も聞く。親の会のような、一緒にお茶をのみ、話をするだけでも救われる。市でもそのような取り組みを行ってもらえれば、保護者は助かると思う。

【基本施策7・8 事務局から説明後、質疑応答】

委員 衛生サポートスタッフについて、安心した。

事務局 9月までは配置することとしているが、感染の状況をみながら判断していかなければいけないと考えている。

委員長 「65 ICT機器等の活用」(P67)について、ICT機器を、子どもたちは使えるのか。苦手な子どもはいないのか。使えないことが理由で、評価に影響することはあるのか。

事務局 今回導入したタブレットは、iPadを導入した。子どもたちが直観的にわかるように工夫されている。教員が丁寧に指導しながら進めていきたい。また、不得手な子どもが不利とならないように、公教育のなかでは、そのようなことがないように今後取り組んでいきたい。

委員長 小中学校の適正化について、地域は学校の影響が大きい。慎重な取り組みをお願いしたい。子どもの意見をまとめて、思いを集めてもらいたい。

委員長 「73 勤務時間適正化の推進」(P77)について、一番超過勤務の多い先生は何時間か。1,000 時間を超える先生はいるのか。

事務局 1,000 時間を超える先生は、中学校にはごくわずかだがいる。教諭の平均は、389 時間で、養護教諭や事務職員などを合わせるともう少し下がる。

委員長 病気の先生は何名くらいいるのか。

事務局 数名程度で 10 名を超えることはない。

【基本施策 9・10 事務局から説明後、質疑応答】

委員 コミュニティ・スクールについて、しっかりと取り組みができているところもあれば、形骸化しているところもある。もっと地域とうまく関わられるようにお願いしたい。

委員 こうみん未来塾は、すごく充実している。学校の授業で取り入れることができれば、先生の負担も軽減されると思う。授業で行うことで、貴重な経験の機会が増える。

事務局 こうみん未来塾については、事務局でも学校の授業でできないか検討をはじめている。

委員 「78 PTA活動の充実」(P80)について、スマートフォンの使用マナーの対象は保護者か子どもか。

事務局 子どもの情報モラルである。

委員長 他に意見はあるか。

委員長 今後は、事務局より提案いただいた方向でまとめさせていただくことでよろしく願います。

<閉会>